

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・3月28日定時株主総会。コロナ禍の尾を引き、土産物廃止継続も相まって、来場者数はあまり増えず。4月3日入社式開催。今年の新卒は昨年から4割減。昨年の技術者の採用獲得が厳しかった。
- ・資材価格高騰は落ち着き、高止まりするも安定している。
- ・新入社員の歓迎会も開催でき、雰囲気としては上がってきているが、依然として原材料高騰、ガソリン・燃料の高止まり、電気料金の値上げなどが経営を圧迫している。
- ・物価上昇に伴い、若干ではあるが収益が減少している。賃金アップをするために経費を見直さなくてはならない。
- ・人員不足の上に新卒採用が思うように進んでいない。高齢化に拍車。燃料・原材料の高騰も課題。

◎製造業

- ・原材料高騰は引き続き大きな上昇はないが、下がる気配もない。
- ・仕事量はあるが、高いスキルを持っている人材が少ない。多品種少量生産としては、技術継承を進めていきたい。
- ・原材料および運賃、エネルギーコスト増加により製品価格への転嫁を余儀なくされている。
- ・新入社員が戦力となるまでは人員数に不足はないが、人手不足感がある。

◎卸売業

- ・新年度を迎え、歓迎会等外食産業向けの需要も回復傾向が見られる反面、物価高騰により、一般家庭の購買行動は引き続き鈍い。
- ・仕入単価が大幅に上昇。
- ・コロナの感染状況は改善してきているが、仕入単価上昇が厳しい。
- ・物流業界の働き方改革の影響で、今まで通りの商品流通に影響が出ることになるだろう。在庫管理のシステムをもう一度見直す必要がある。

◎小売業

- ・昨年と比較して3月の売上が思いのほか上がっていなかったため、銀行担当者に今の状況を聞いてみたところ、今はコロナの影響より値上げによる影響が業況を左右しているとのこと。
- ・電気料金・物価高騰により、先の見通しに不安を感じる。

◎サービス業

- ・子供の入学式に親も参加出来るようになり、様々なイベントが戻ってきている感じがある。
- ・全体的に賃金が上昇し、イベントに使えるお金がもっと増えると経済的にも回ってくるように思う。
- ・コロナは収束し、福利厚生系のイベントを再開できている。
- ・賃上げと電気料金等の値上げを売上でカバーできるか注視している。
- ・4月も5,000品目の食料品値上げがあり、消費マインドの低下が懸念される。
- ・車両に関する燃料、タイヤ、部品などの高騰が採算ベースを崩している。

- ・従業員の高齢化が顕著となり退職者が増えている。
- ・今月前半は市議選・県議選の影響で、歓送迎会の時期にも関わらず人流が思わしくなかった。
- ・3月は送迎会による人流の増加がみられたが、4月に入り歓迎会の影響は感じられない。花見や外国客船の入港もあり、明るい話題が増えてきていることに期待したい。
- ・人の動きは活発になってきているように感じるが、どの業種も人手不足の話を聞く。募集をしても人材確保が大変な現状。
- ・今期入社した新入社員数は昨年度実績よりも減少したため、不足分を充足できず人手不足は解消できていない。通年採用に期待したいが、募集に対する動きが鈍い状況は否めない。
- ・業績については、コロナ禍で開催できなかったイベントが開催されるなど受注数の増加が見込まれることは好材であるが、物価高による利益の圧迫が課題となる中、コスト抑制策を推進し適正な利益確保に努めることが急務となる。
- ・3月13日よりマスクの解禁ではあるものの、今だ、コロナは減少しない傾向にある。また、業種柄、マスクは外しづらいため、状況は変わらない。